



変化を先取りし、四十周年を目指して

一般社団法人日本ヒーブ協議会
代表理事

宮木 由紀子氏

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

女性活躍推進法施行年でもある二〇一六年度は、「働く女性の『三方よし』自分よし・企業よし・社会よし」の視点で生活者を考える」をテーマに活動をスタートしました。

自分・企業・社会の共通価値を見出し、企業視点と生活者視点の双眼をもつて企業活動を考える当協議会の視点は、会員各社の消費者志向経営にもつながると考えています。

昨年はこの視点を活かし、当協議会作成の冊子『超高齢社会における企業の消費者対応』お客様の声を活かした取り組み「三十三事例」を元に、高齢消費者対応における課題と対応について、講演、座談会、寄稿などで積極的に情報発信を行いました。

定期的を実施しているお客様対応基礎講座でも高齢者対応の視点を取り入れ、実践的なスキルアップのコンテンツ提供も行っております。

す。今後、さらなるグローバル化やAIの導入・IoTの普及等の社会変化によりますます社会は複雑化し、消費者の多様化が進むと考えられます。

持続可能な社会の構築に向け変化を先取りし、来年迎える四十周年を目指して企業と生活者をつなぐことで社会に貢献できるよう、本年も一層努力して参ります。

